ひめは、こわくなって、ひきかえそうとしましたが、もう、ひきかえすちからが、ぬけてしまいまして、ひめは、あまりのおそろしさに、つたにすがりながら、なきだしました。そのこえをききつけたのか、はるかがけのしたのくさはらへ、おおぜいのひとがでて、ひめのすがたを、みあげていましたが、がけがあんまりたかいので、そのひとたちが、まるでありのように、みえました。これをみると、ひめは、いっそうおそろしくなって、てとあしで、つたにかじりついて、ぶるぶるふるえていますと、そのなかに、はるかしたのほうから、ひめのつかまっていたつたをつたって、のぼってくるものが、あります。だんだん、ちかづいてみますと、それはくろいふくに、ずぼんをはいて、しろいくつに、あかいふくめんをした、きみょうなにんげんでしたが、さもかるそうに、ひめをひっかかえますと、ひめのからだに、なにやら、ちいさなつつみのひものようなものを、くくりつけますと、いきなり、ひめのからだを、。、なげおとしましたおしゃべりひめはびっくりして、おもわず、「あれー」と、さけびましたが、まもなくぽかーんと、おおきなおとが、したと

おもうと、ひめのあたまのうえで、おおきなかさが、ひらいて、おりからふくかぜにつれて、むこうにみえるおしろのほうへ、ふわりふわりと、とんでいきました。ひめは、またびっくりしましたが、それでも、いのちが、たすかったので、ほっとあんしんしました。